

所沢航空記念公園のあゆみ

わが国最初の公式飛行場、その跡地に造られた所沢航空記念公園。明治44年(1911年)の飛行開始以来、この地は日本の航空の歴史に多大な足跡を残してきました。その後、変遷を経て米軍基地一部返還を機に県内最大規模の埼玉県立の都市公園としてオープンし、今日に至っています。

所沢航空記念公園の歴史(概略)

年号	主な内容
明治43年2月	臨時軍用気球研究会が所沢を飛行場用地として決定
明治44年4月	所沢飛行場開設、4月5日早朝 徳川・日野両大尉が初飛行に成功
大正元年11月	大正天皇 所沢飛行場来場
大正2年3月	木村・徳田両中尉のブレリオ機が旧松井村柿の木台に墜落、わが国初の航空犠牲者となる
大正8年1月	フランス航空教育団(ウォール大佐以下46名)が教育訓練にあたる
大正8年4月	陸軍航空部が設置され、所沢に航空学校および補給部が設置される
大正13年5月	陸軍航空学校が陸軍飛行学校となる
昭和8年4月	少年航空兵教育のため東京航空学校が所沢に新設される
昭和12年4月	所沢に陸軍航空整備学校が設立される
昭和20年2月	本土決戦に備え航空整備学校閉校
昭和20年8月	第二次世界大戦終結。米軍が飛行場を接收
昭和42年3月	基地全面返還運動市民大行進が行われる
昭和46年6月	米軍所沢基地の約60%が返還される(現在は約70%が返還)
昭和53年3月	所沢航空記念公園 開園
昭和62年5月	航空公園駅 開設
平成5年4月	所沢航空発祥記念館 開設
平成11年6月	茶室「彩翔亭」を開設
平成20年3月	開園30周年事業にて沈床茶園をリニューアル
平成23年4月	航空発祥100周年

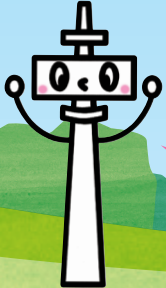


- 「YS-11」中型旅客機**
国産唯一の本格的な近距離ターボプロップ中型旅客機。年に数回、機内公開が行われています。
- 沈床茶園**
開園30周年を記念し、2008年に改修。滑走路をイメージした庭園灯が設置されています。
- ウォール大佐像**
フランス航空教育団の団長として来日。日本の航空技術の向上、工業界の発展に貢献しました。

所沢航空記念公園 園内マップ



- お手洗 Toilets
- おむつ替え Baby care room
- 障害がある人が使える設備 Accessible facility
- 災害時避難場所 Evacuation Site
- 水飲み場 Water fountain
- AED AED
- 電話 Telephone
- 駐輪場 Bicycle parking
- 駐車場 Parking



このマップを活用して
園内を散策してみよう!